～カタイ絆でよみがえる笑顔の街道糸魚川～

HOPE いとい がわ 復興情報紙ホープ

発行元：糸魚川市復興推進課 TEL.025-552-1511

Vol.28
2019.2.27
月2回 第2・第4水曜発行

特集

「こども消防隊の訓練に密着!」

3回目

2月2日、2018年度最後のこども消防隊の訓練が行われました。当日は2班に分かれ、長野消防署長の災害講話と火災を想定した訓練を交互に体験しました。

1 消防署長の災害講話

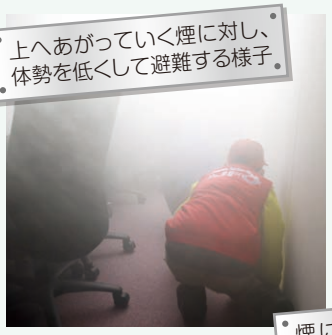
火災の怖さや災害に対する知識について話があり、「一番大切なものはなんですか」という質問では「命!」と手を挙げて積極的に発言する姿も。災害時には「見る(目)、さわる(手)、聞く(耳)、味わう(舌)、におう(鼻)」、これらの力が大事だと学習しました。

講話の様子

目(視覚情報)を閉じた状態で物を当てる実験

2 火災を想定した訓練

実際に煙や防火戸を用いて訓練が行われました。「火事で一番怖いのは煙です。煙を吸って亡くなる人が多い」という消防署員の言葉に隊員たちは真剣な表情を浮かべ、実際に部屋が煙に覆われる過程を体験。火災報知機や防火戸が作動する様子を学びました。



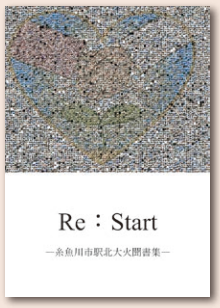
上へあがっていく煙に対し、体勢を低くして避難する様子

煙に反応して閉まる『防火戸』の説明を聞く隊員たち

今年度のこども消防隊の活動は、今回で最後となりました。6年生は卒業ですが、この一年間の経験を通じて、将来消防団や消防職員として地域を守る一員になってくれることを期待します。

復興や防災にまつわる News(ニュース)

「聞書集(ききがきしゅう)」が完成しました!



大火があったことを忘れないように、当時何があったのか、復興するにあたりどのような意見があったのかを当事者の言葉で残すことを目的に作成した「聞書集」が完成しました。市役所、復興まちづくり情報センターで閲覧できます。

次世代に記憶を伝承するとともに防災教育に活用していただくため、市内の小学校(3年生以上)、中学校のクラス・図書室に設置されています!

岡部広和さん(長岡技術科学大)は、防災・復興を専攻している大学生です。インターンシップで復興まちづくり情報センターに派遣され、5か月間被災地に関わってきました。自身も地元宮城県で東日本大震災を経験しており、悲しい思いをしている人を見てきた経験から、「聞書集」の取材時は糸魚川の人たちの気持ちが他人事とは思えなかったそうです。

この人がまとめました!

長岡技術科学大学4年 岡部広和さん

ぼくたち!わたしたち! こども消防隊

こども消防隊員を紹介します!

隊員　金子 大道くん
(西海小学校5年生)

お父さんが消防団だったので入隊しました。活動をしていくなかで「自分の命は自分で守る」という言葉が印象に残っています。大人になったらお父さんみたいに消防団に入りたいです。

いとバタ会議録

実際に火災になると半径1メートルの範囲でさえ煙で見えないということを、こども消防隊の訓練で痛感しました。煙の怖さを知っているかどうかは大きな差だと思います。ぜひ機会をつくって体験してみてください。(編集部T)